

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす [ファイン・ファイネット]

FINE FINET

[NEW YEAR TOP MESSAGE]

平成28年 年頭にあたって

株式会社ファイネット

代表取締役社長

細見 典男

[FINET FEATURE ARTICLES]

商品情報授受のさらなる効率化に向けて

株式会社ジャパン・インフォレックス

代表取締役社長

西田 邦生 氏

株式会社ファイネット

代表取締役専務

小原 応孝

[HELPDESK NEWS]

PDF変換サービス(販売促進金請求書)機能拡充のお知らせ
～『インターネット手順への対応』と『ヘルプデスク対応時間の拡張』～

Vol. **37**
2016 Winter
ファイネット発行

NEW YEAR TOP MESSAGE

平成28年
年頭にあたって

代表取締役社長
細見 典男



会員企業の皆様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、ファイネットの事業に一方ならぬご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

弊社は、昨年9月の取締役会において、2002年より事業活動を行ってきた「FDB（商品情報DB）サービス」を今年4月に株式会社ジャパン・インフォレックスに事業承継することを決定しました。商品情報のデータベース運営の一元化を図ることにより、業界全体の効率化・標準化を目指すことを目的としています。

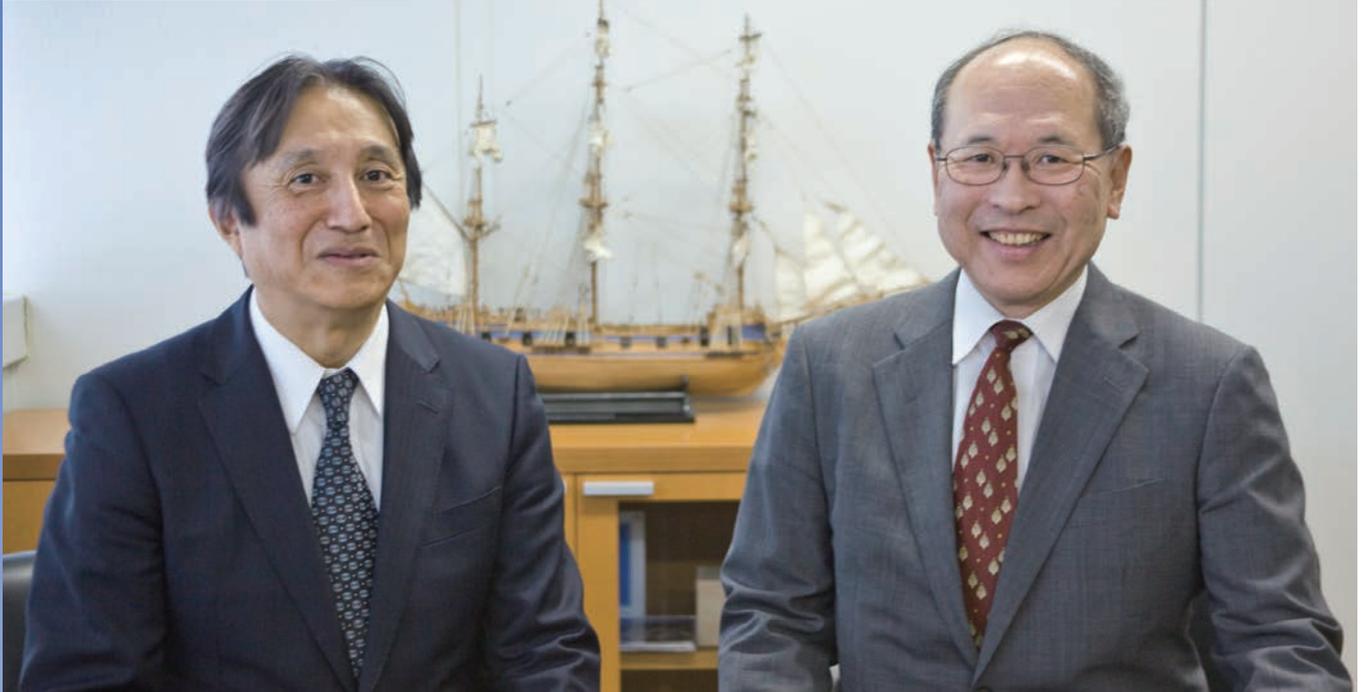
なお弊社は、4月以降も株式会社ジャパン・インフォレックスとの連携は継続し、商品規格書の標準化や商品情報授受の効率化には引き続き微力を尽くしてまいります。

本年3月には商品流通VANのWebEDIの緊急避難システムの構築が完了し、この数年にわたって進めてまいりましたVAN事業のDR化が一段落する予定です。皆様に信頼される業界インフラであり続ける努力を継続してまいります。

創業31年目を迎えることとなりますが、「円滑なVAN事業の運営」「業界の標準化・効率化への貢献」「顧客満足度の向上」を果たすために、全社一丸となって社業に邁進する所存でございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

商品情報授受の さらなる効率化に向けて



この度弊社は、株式会社ファイネットを分割会社、株式会社ジャパン・インフォレックス（以下、JII）を承継会社として、2016年4月1日をもってFDBサービス事業を会社分割（吸収分割）の方法により承継することを決定いたしました。

本年の新春対談はJIIの西田社長をお招きし、弊社専務の小原と事業承継の目的や背景、および今後の方向性について対談していただきました。（本文敬称略）

【出席者】 上記写真左より

■ 株式会社ジャパン・インフォレックス

代表取締役社長 西田 邦生 氏

株式会社ジャパン・インフォレックス

2006年設立。食品卸売業の商品情報DBセンターとして、参加企業の合理化に貢献するとともに、業界の標準化と合理化に寄与することを目的とした会社。商品情報DBシステム「Inforexデータプール」、Web検索型商品情報提供サービス「Inforex TREASURE」を提供している。

■ 株式会社ファイネット

代表取締役専務 小原 応孝

【司会】 株式会社ファイネット 米田成起

250万件の商品情報を保有

——両社のデータベース（DB）サービスの成り立ちと現状について教えてください

小原 FDBサービスは、日食協^{※1}が事務局となり、主たるメーカー/卸で運営されていた酒類加工食品データベースセンター（SKDBC）を引き継ぐ形で2002年にスタートしました。ちょうどその頃、ファイネットは設立から約15年が経過し、オンラインデータ交換のVANサービスが業界共通基盤として広く認知されたころでした。

開始当初のFDBは、会員数が約100社、商品件数が約2万件と、決して規模の大きなDBではありませんでしたが、その後メーカー/卸各社の多大なご支援により、現在では会員数が334社（メーカー274社、卸・小売60社）、商品件数が約15万件のDBとなっております。

西田 ジャパン・インフォレックス（以下 JII）の設立は、ファイネットがFDBサービスを開始してから4年が経過した2006年です。当時からすでにFDBには大手メーカーを中心とした商品情報が登録されており、FDBだけでも卸の売上げに締める割合は大きかったのですが、「データ処理による卸の合理化」という観点ではFDBだけで十分ではなく、卸の商品マスタ整備に係る業務の効率化/合理化を一層推進すべく大手卸の共同出資により設立されました。

お陰様でJIIも今年10周年を向かえ、現在DB（Inforex）で保有している商品件数は約250万件となりました。設立当初よりFDBのデータを完全連携しておりますが、一方でFDB以外の商品情報については現在約7000社のメーカーがInforexへ直接ご登録いただいております。また、利用卸による商品情報登録も可能としており、現在20社の卸で共同利用していただいております。



西田 邦生 様

1977年、国分株式会社入社。経営統括室部長、執行役員 経営統括本部付部長、執行役員 審査法務部部長を歴任。2011年、株式会社ジャパン・インフォレックス 取締役副社長を経て、2012年より代表取締役社長。多摩大学大学院客員教授も務められ、後進の育成にもあたっている。



小原 応孝

メーカー/卸間に存在する2つのDB

——現在も連携されているとのことですが、両社DBの関係性についてもう少し具体的に教えてください

西田 メーカーによってFDBへ新規登録および更新されたデータは、日々JIIへ連携され、その先の利用卸各社へ配信されています。利用卸各社はFDBを包含したデータを活用していることから、FDB会員となることが利用条件となっており、結果、すでに完全連携が実現できています。

小原 JII利用卸各社にはFDBデータのヘビーユーザーとして大変お世話になっていると認識していますが、JIIとの完全連携で使いやすい状況になっているとは思いますが、一方でメーカー/卸間で同様なDBが2つ存在する結果となりました。メーカー/卸間における意思疎通や情報流、コスト等の面で客観的に見たときに「本当に効率的な姿なのか？」ということを感じていたのも事実です。

業界全体にとって望ましい姿へ

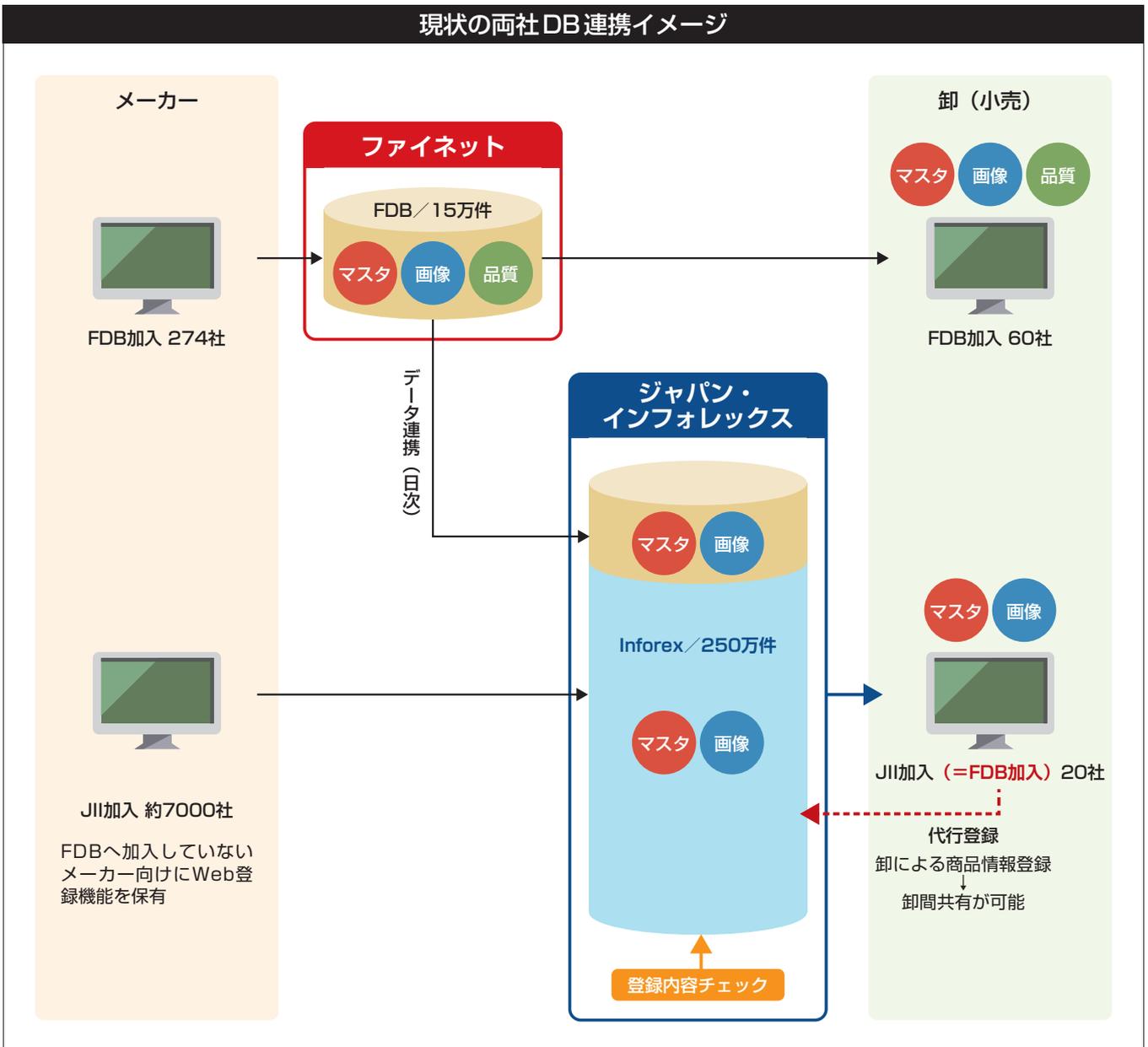
——今回の事業承継に至った背景と経緯を教えてください

小原 これまでもメーカー/卸間においてDBが2つあることの必要性について、両社で何度か話し合ってきましたが、両社DBにおけるビジネスモデルの違い等もあり、なかなか進展しない状況が続いておりました。その一方で、昨年6月頃、ファイネットへ出資いただいているメーカーを中心に「業界DBのあるべき姿」を調査する中で「メーカー/卸間のDBは1つであるべき」とのご意見が多いことが確認できました。業界全体の効率化やコスト削減、メーカー/卸間のスムーズな情報伝達の推進を明確な目標・指針とした両社DB一元化に向けた協議が昨年秋から本格化し、DBは実際にデータをお使いになる卸に近いJIIで一元化を目指すことをベースに議論を重ねてきました。

西田 これまでなかなか纏めきれない部分がありましたが、「どちらに優位性があるか？」ではなく、シングルインプットの環境を整備することが「業界全体にとって望ましい」というゴールイメージに向けて両社協議を継続し、今回の決定に至りました。

今回ファイネットおよび関係各社の皆様には非常に前向きな決断を下していただき、ここまで来ることができました。大変感謝しております。

現状の両社DB連携イメージ



両社DB一元化に向けた2つのSTEP

——事業承継の進め方について具体的に教えてください

西田 まず両社で合意したことは「業界へ貢献すること」「現行FDB会員企業へ極力迷惑を掛けないこと」です。これを大前提として将来的に両社DB一元化に向けて進めてまいります。現行両社DBは別々の基盤であり、いきなりシステム統合することはユーザーへの影響も含めていろいろな問題が出てきてしまいます。

STEP 1

FDBサービスの運営をJIIに一元化

そこで、まずは2016年4月に事業承継を行い、FDBの運営をJIIで引き受けることからスタートい

たします。FDBに関する各種機能・料金・サポートセンター・画像作成センターなどFDB会員各社の運用についてはこれまで通りご利用いただけます。JIIで一定期間両サービスを運営しながら、FDBの機能や会員各社の利用実態を把握し、実態に沿った形でデータ登録方法や提供方法を丁寧に検討していきます。

STEP 2

2つのDBを一元化

DB一元化については、これから皆様のご意見、ご協力をいただきながら進めていきたいと思っています。

その中で「品質系情報をどのように実装していくか」については大きなテーマであると思っています。ファイネットはこれまで【品質230】※2、

食の安心情報ネットワーク^{※3}、PITS^{※4}など、品質系情報における規格の標準化を推進してこられました。そしてこの度、平成26年度農林水産省補助事業^{※5}の事務局として「標準データリスト」「標準商品規格書」を取り纏めていただきました。

JIIは卸が使うという立場で運営されているDBであり、データの信頼性/安全性は非常に大きな部分であるため、現在品質系情報については利用を控えております。一方で、FDBでは業務用卸を中心に品質系情報の活用が進んでいます。実活用を行っている皆様のご意見もうかがいながら、DB一元化までに安全性の高い情報をサービス提供できるよう検討していくことは大変重要な課題であると考えています。

——現在JII未利用のFDB会員については今後どのようなようになっていきますか

西田 詳細はこれからですが、今より少しでも良いものになるようにしっかりと検討していきます。ご安心いただくとともにご協力をお願いしたいと思っています。

真の業界共通DB基盤へ！

——最後に、今後に向けて一言お願いします

西田 10月上旬の対外発表以降、これまでJIIとしてあ

まり接点のなかったメーカーや業務用卸に対して、ファイネットとご挨拶にうかがいました。その中でこれまでJIIとしてお聞きできなかった話が出ることもあり、改めてファイネットがこれまで築きあげてきたものを実感しました。これまでファイネットが行ってきた活動をJIIもしっかりと継続していかないといけないと思っております。

また、今回の事業承継を機に、ファイネットにも資本参加いただき、経営に参画していただきます。これまでファイネットが関わってきた皆様のご意見をいろいろな形で吸収していきたいと思っています。今後も両社で協力しながら真の業界共通DB基盤となるよう努めます。皆様へご相談する場面も多々出てくると思いますが、ファイネットが運営していたときと同様に、ご指導、ご支援のほどよろしく願いいたします。

小原 ファイネットは様々な標準化推進活動に携わっております。商品情報授受については「食の安心情報ネットワーク」や「PITS」に参画してきましたが、業界のための活動として引き続き微力を尽くしていきたいと思っています。また、JIIの<STEP1><STEP2>推進にあたってはメーカー/卸間の情報交換も必要になってきます。当面の間、システム面や品質系情報授受のあり方、登録サイドと利用サイドの状況把握等についてJIIとメーカー各社との間で議論を行う場の設営にも協力していきたいと考えています。今後ともご協力をお願いいたします。

※1 一般社団法人日本加工食品卸協会。

※2 日本GCI推進協議会において2008年に製配販3層で検討・策定された、原材料配合比など、相対で授受する範囲を取り決める項目も含めた品質系情報の標準形。

※3 業務用分野における品質関連項目を主とする商品情報について、メーカー/卸/外食産業間の授受効率化を目的として、当業界内での標準形としてのFDB活用推進を図る業務用卸6社（尾家産業(株)、(株)久世、高瀬物産(株)、(株)トーホー、服部コーヒーフーズ(株)、ユーシーシーフーズ(株)）の活動。

※4 商品情報授受標準化会議（Product Information Transfer Standard）の略称。商品に関する標準的な情報項目と授受方法の策定・普及を目的として、製配販31社、業界団体3社およびDB事業者8社が参加する会議体。

※5 「平成26年度農山漁村6次産業化対策事業」における「食料品バリューチェーン構築支援事業」のうち、加工食品製造・流通策定事業の取組み。食品表示のもととなる商品規格書統一書式、およびその記載方法を記したガイドラインを策定した。

事業承継後のFDBサービスについて

2016年4月の事業承継以降も、FDBサービスの機能/利用料金/サポートはこれまで通りご利用いただけます。サービス事業者変更に伴う請求/支払方法などの一部変更内容については、FDB会員の皆様へ個別にご案内いたしておりますので内容をご確認ください。

■お問い合わせ先
株式会社ファイネット
営業推進部
TEL.03-5643-3450

PDF変換サービス(販売促進金請求書)機能拡充のお知らせ

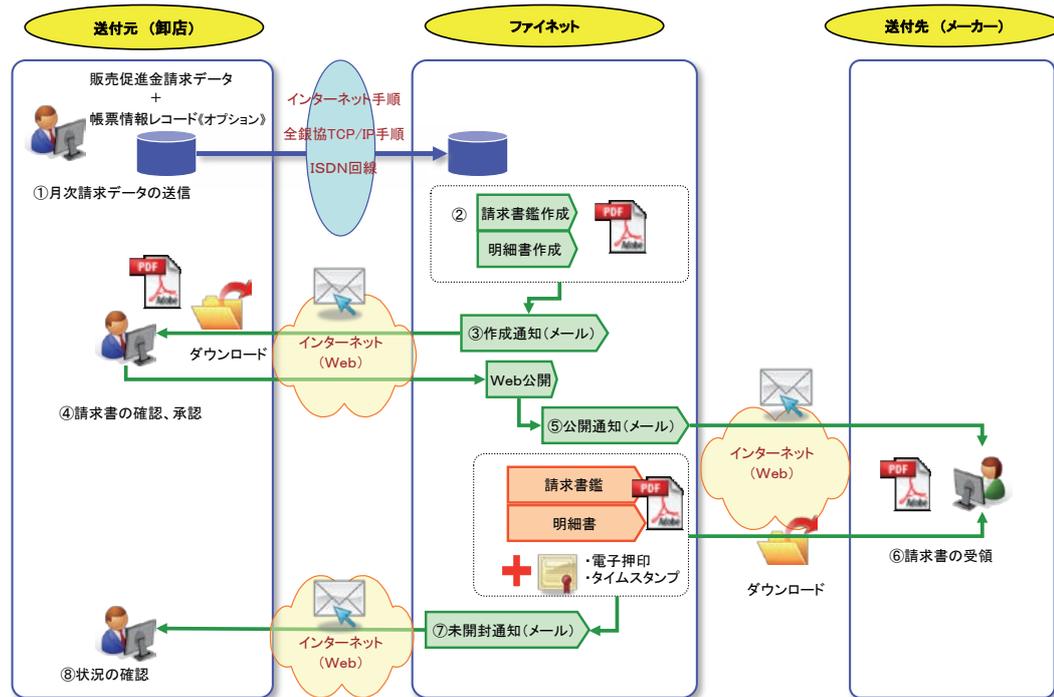
～『インターネット手順への対応』と『ヘルプデスク対応時間の拡張』～

PDF変換サービス(販売促進金請求書)では、ユーザー様のさらなる利便性向上を目的として、2015年11月2日(月)より、『インターネット手順への対応』と『ヘルプデスク対応時間の拡張』を実施いたしました。今回は、その2つの取組みについてご紹介いたします。

◆PDF変換サービス(販売促進金請求書)とは

卸店からの月次販売促進金請求データをもとに、販売促進金請求書(鑑)、明細書のPDFファイルを作成(日食協標準書式)し、メーカーがWebサイトを通じて取得するサービスです。

〈サービス概要図〉



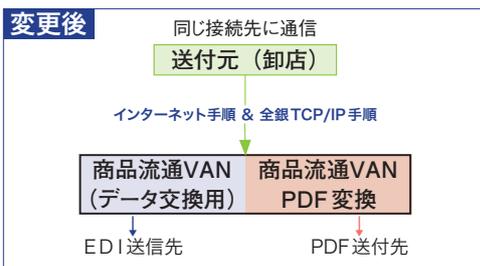
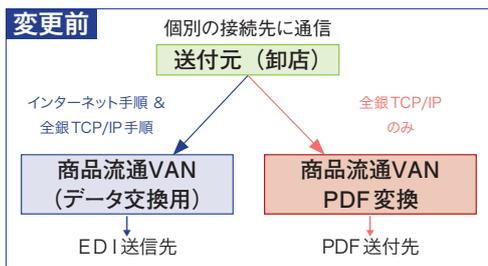
◆PDF変換サービス処理手順◆

- ①卸店は月次請求データをファイネットへ送信します。
- ②ファイネットでは、夜間処理にて請求書を作成します。
- ③請求書が作成されると、作成通知(メール)が卸店に送信されます。(AM8:00~)
- ④卸店は請求書を確認し、メーカーへの公開(差止)の指示をします。
- ⑤公開指示がされると、メーカーに公開通知(メール)が送信されます。
- ⑥公開通知(メール)が届くと、メーカーは請求書をダウンロードできます。
- ⑦PDFファイルを開封していないメーカーを卸店へ未開封通知(メール)でお知らせします。
- ⑧卸店はメーカーのダウンロード状況などが確認できます。

※ Adobe ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標または登録商標です。
 ※ PDF形式ファイルをご覧いただくには、Adobe社のAdobe Readerが必要となります。

◆2つの取組み

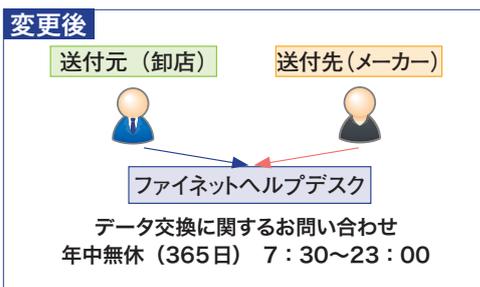
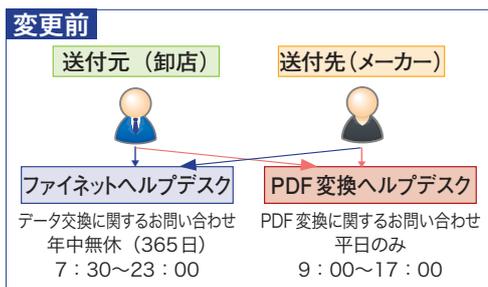
(1) インターネット手順への対応



送付元(卸店)からのデータ送信として、新たにインターネット手順(3種)にも対応しました。

- ・JX手順
- ・ebXML MS手順
- ・AS2手順

(2) ヘルプデスク対応時間の拡張



お問い合わせへの対応時間を拡張しました。

- ・年中無休(365日) 7:30~23:00

ご不明な点がございましたら、私たちファイネット ヘルプデスクまでお気軽にお問い合わせください。

☎ 0120-091-094 (受付時間 7:30~23:00)



[FINET ANNOUNCEMENT] ファイネット・アナウンスメント

2016年度ファイネットユーザー会を開催いたします

当会はファイネットの取組み内容のご紹介とともに、ユーザー様間の御交誼を深めていただく目的で、毎年開催しております。

ファイネット創立30周年の節目となる次回ユーザー会は、2016年5月24日（火）に東京での開催を予定しております。

詳細は別途ご案内申し上げます。皆様のご参加をお待ちしております。
(営業推進部)



2015年度ファイネットユーザー会の様子

会社休業日について

弊社では、2016年2月19日（金）を会社休業日とさせていただきます。ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ファイネット ヘルプデスクは通常通り稼働

しておりますので、お問い合わせの際は、ご利用ください。
(総務部)

【ファイネット ヘルプデスク】

 **0120-091-094**

(年中無休7:30~23:00)

FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET（ファイン・ファイネット）」の宛名や部数の変更等がございましたら、右記までご連絡ください

【連絡先】 株式会社ファイネット 営業推進部

Tel 03-5643-3450/e-mail info@finet.co.jp

(総務部)

ファイネットへのお支払は、お得で便利な「預金口座振替」をお勧めします

弊社では、お支払方法に「預金口座振替」がございます。「預金口座振替」ご利用のメリット・お申込方法は以下の通りとなります。この機会に、是非とも、ご検討いただければ幸いです。

【ご利用のメリット】

- (1)お振込手数料は、通常お客様負担となりますが、振替手数料は弊社負担となります。
- (2)月々のお振込手続きが不要になり、業務の簡略化が図れます。

【お申込方法】

- (1)弊社、手続きサイトからのお申込となります。
手続きサイト URL <http://www.finet.co.jp/fts>
- (2)手続きサイトのご利用がご不明の場合のお問い合わせ先
(総務部)

【ファイネット ヘルプデスク】

 **0120-091-094**

(年中無休7:30~23:00)



FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.37 2016 Winter 2016年1月1日発行

[発行] (株) ファイネット 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル7階
Tel.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 小原 応孝

<http://www.finet.co.jp>